

学生時代、好きなミュージシャンを聞かれて、万人受けする当たり障りないシンガーやグループ名を適当に答えたりしていた。いいなと思う曲はたくさんあっても、特別好きな存在というわけではない。心底気に入っているような人やグループ名は、わりと親しくなった友達にしか教えなかった。これはいったい、どんな心理だったのか。

以前、だれか忘れてしまったが、著名な方が口にしていた「本棚を見られたくない心理」に通じるものがあるかもしれない。これについてAIに尋ねたところ、次のような文言が返ってきた。

《読書が極めて個人的な行為であり、自分の内面や隠れた趣味、知られざるアイデンティティを無防備に他人にさらけ出すことに強い抵抗や恥ずかしさを感じるためです》

自分なんて大した存在じゃなくても、訳もなく人に胸の内を知られたくはない。そんな思いがどこかにあった。だから、本棚の話を思いだしたのだろう。

でも、音楽でも、映画でも、小説でも、芝居でも、落語でも、何でも、そんなふうを受け止められる存在がある方が、おそらく毎日豊かに感じられる、と今も思っている。根拠を求められると、説明が長くなるが…。

本当は今が旬のサッカー・ワールドカップ北中米大会について書こうと思っていた。この大会は、1962年のチリ大会以降、2点台で推移してきた一試合平均得点の数が3を上回るかもしれない大会になる可能性があるという（この原稿は準々決勝終了の時点で書いています）。理由の一つには、参加国が増えて実力差が以前より大きくなったことが挙がるかもしれない。

2点台で推移してきた背景には、守備重視の戦術の進化、選手のフィジカル強化などがあるそうだ。しかし、「0-0」や「1-0」の試合より、それなりに得点を奪い合った方がサッカーは素人目には単純に見えて楽しい。

(編集長 北村 豊)

[STAFF]

■取材協力：学事部、各学部事務室、大学院事務室、学生部、ボランティアセンター、中央図書館、国際センター、入学センター、キャリアセンター、学友会、経理研究所、委員会ほか

■写真提供&協力：「中大スポーツ」新聞部

■学生記者：吉田未来(理工4)、金岡千聖(商4)、池田さくら(文4)、高橋来佳(文4)、木村結(法4)、渡邊弘将(国際経営4)、小林莉子(国際情報4)、松岡響紀(経済3)、伊橋佳七(経済3)、西桃香(経済3)、池田茉莉(商3)、森田華瑠(商3)、渡木彩文(文3)、九十歩胡春(文3)、荒田智海(文3)、則末耀斗(文3)、渡邊歩(総合政策3)、前田つむぎ(法2) = 順不同

■制作協力：株式会社トリッド

**Web版
「HAKUMON Chuo」は
こちらから閲覧
できます。**




**NEXT
ISSUE**

「HAKUMON Chuo」2026 秋冬号
No.291 2026年11月27日発行予定

2026 夏号 No.290

2026(令和8)年7月24日発行

発行：中央大学広報室
〒192-0393
東京都八王子市東中野 742-1



“学生記者”になりませんか？

Would you be
a student reporter?



(申し込み・問い合わせ)
中央大学広報室
「HAKUMON Chuo」編集担当
E-mail: hc-grp@g.chuo-u.ac.jp

**「HAKUMON Chuo」は
中大生が取材・編集する大学広報誌です。
現在、学部在学学生を対象に学生記者を募集しています。**

メリット
1

元新聞記者のプロや先輩の学生記者に、取材方法・原稿の書き方や、添削指導などを受けることができます。将来どんなキャリアを目指すにも文章力は重要です！

メリット
2

取材を通して、さまざまな人に出会うことができます。出会いの数ほど思い出ができることでしょう。

メリット
3

記者活動を通して、コミュニケーション能力など社会に出て活躍するための基礎力を身につけることができます。



プロ野球ドラフト会議で指名された硬式野球部選手の記者会見＝2023年10月26日、多摩キャンパス